



## 2022年7月 診療カレンダー

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8  
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階  
TEL: 03-3639-3110 FAX: 03-3639-3112

## 2022年8月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

・熱中症に  
注意しましょう  
・演奏会に出演  
します



ホームページ  
院長ブログ公開中

18時最終受付

日	月	火	水	木	金	土
31	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
9:30-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

※発熱外来は電話予約をしてから受診をお願いいたします

### 「今月の言葉」

人は幸せだから歌うのではない。歌うから幸せなのだ。  
～ウィリアム・ジェームズ～

### <お知らせ>

- 7/30(土)はオーケストラに出演のため臨時休診となります
- チケット(無料)ご希望の方はお声かけください
- 人間ドック・心臓ドック・動脈硬化ドックを開始しました  
詳しくはホームページをご覧ください



8月から診療時間に変更になります。↓下記参照  
ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いたします。

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	◎ 9:00-12:30	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

### 合唱コンクール



猛暑が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか？  
我が家では中学3年生の娘がこのところ、7月に開催される合唱コンクールのピアノ伴奏の練習に熱が入っています。課題曲は岩間芳樹作詞、新実徳英作曲の「聞こえる」という作品です。これは1991年(平成3年)第58回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲として作られた曲です。歌詞には、世界中から聞こえてくる情景を前に、自分が何も出来ないことに対して、もどかしさやいらだちを覚え、葛藤する若者の姿が描かれています。作品の背景には天安門事件、ルーマニア革命、原油流出事故、ベルリンの壁崩壊、森林破壊などがあり、美しい旋律ののってメッセージ性のある歌詞がうたわれます。私はこれは現代でも通じるテーマだと感じました。YouTubeで動画を検索してみたところ、東京都立府中西高等学校が1991年にNHK全国学校音楽コンクール全国大会で演奏した映像があり、画面越しではありますが、美しく若々しい歌声に心が揺さぶられました。折しもそれは私が高校を卒業して間もなくの時でもあり、彼らの姿はまさに私の高校時代に重なるものがあったのです。

私が通っていた県立東葛飾高校は、毎年5月頃に合唱祭があり、それは体育祭、文化祭とともに大変盛り上がるイベントでした。合唱祭は近所の柏市民会館を一日借り切って、3学年全クラス(当時30クラス)の順位をつけるというもので、クラスごとに工夫を凝らした衣装を身に着け、まさにクラス一丸となって取り組むものでした。入学して間もない高校1年生は、合唱祭がどのようなものかわからずに参加するため、上級生たちの圧倒的な歌声、異様なほどの熱量の盛り上がりによって衝撃を受け、翌年からはかなり真剣に取り組むという構造となっていました。村度無しにつけられた順位はほぼ学年順位になっており、3年生が1位-10位、2年生が11位-20位、1年生が21位-30位を占めることが多かったです。

たまに1年生が2年生の順位に割って入ってくると1年生のクラスは称賛され、2年生のクラスは恥ずかしい思いをするというくらい実力の差ははっきりしていました。3年生に進級すると優勝目指して4月の始業式直後から自主的に朝練、昼練、放課後練などが始まり、校内にはあちこちで発声練習の歌声が響き渡ります。私は高校3年生の時に初めて指揮者となり、それこそクラスの仲間たちと死に物狂いで優勝を目指しましたが、残念ながら一歩及ばず準優勝という結果。しかしそのときの熱い気持ち、柏市民会館が揺れるほどの迫力で全員で歌った「大地讃頌」はかけがえのない青春の1ページです。

その年の合唱祭で優勝したクラスにはちょうど佐々木冬彦先生という音楽の教育実習生が研修で在籍されていました。佐々木先生は当時芸大の作曲科に在学中で、母校に研修にやってきました。私は選択科目が音楽でしたので、佐々木先生の授業を受けましたが、そのエネルギーなピアノ演奏もさることながら、ご自身が作曲されたオーケストラ曲も聴かせていただき、その恵まれた才能に大変感銘を受けました。優勝したクラスは佐々木先生からも指導を受けていたので、やはり歌声も別格でした。

2年前にコロナ禍、高校の同窓会のLINEグループで、リモートで合唱しようという企画が持ち上がりました。ひとりひとりが自宅で歌った「大地讃頌」の映像をつなげて動画をつくるというものです。その中のメンバーの一人が佐々木先生にその動画を送ったところ、佐々木先生も我々のことをよく覚えてくれていて、たいそう喜ばれたそうです。そのお返事のメールには「またいつかお会いしましょう」との文面がありました。しかし、その直後に佐々木先生は脳梗塞で亡くなられ、再会の望みは永遠に絶たれてしまいました(享年55歳)。佐々木先生は大学卒業後は作曲家とハーピストとして活躍していたようですが、目の病気を患い、晩年は作曲家として活動されていたようです。2018年の浜松ピアノコンクールの課題曲には佐々木先生の作品が取り上げられたそうです。クリスチャンとしても活動されていた佐々木先生の晩年の作品からは、高校時代に受けたエネルギーな印象とは全く異なる、内に秘めた「祈り」「平安」を感じるものが多いです。

それはさておき、子供たちが歌う合唱というのは大人の成熟したコーラスとは違った魅力にあふれています。それは子供のころにしかない初々しい歌声と未来への夢と希望、すなおでのびやかな歌声には涙が出てきます。子どもたちが一生懸命歌う歌声をまた聞いてみたいですね。

「聞こえる」の歌詞は「教えてください 何が出来るか 光っている道を心開いて歩いていきたい 何が出来るか 教えてください」という問いかけで終わっています。この問いかけはまさに高校生から大人への問いかけだと思いますが、皆さまなら、この問いかけにどのように答えますか？

文責 齋藤 幹